

試験研究活動情勢報告（平成 31 年 3 月分）

【果樹試験場】

カンキツにおける IoT 活用技術の開発へ向けて⑤



プラントキャノピーアナライザーを使用して LAI を計測（魚眼レンズで撮影）

ユズにおいて、隔年結果を起こさない適正なせん定指標を得るため、せん定実施時の LAI（葉面積指数；葉の重なり程度）と着果、収穫量の関係を調査し、樹の大きさごとに安定生産可能な状態を明らかにしていきます。また、LAI 計測装置のプラントキャノピーアナライザーは高価で生産者が導入することは難しいため、撮影画像等により LAI を簡易に推定する手法の開発も行います。これにより、LAI の可視化が可能になり、せん定の指標として、生産者が活用しやすくなることが期待されます。

「土佐文旦」における野囲い貯蔵資材の検討



野囲い内部の様子

「土佐文旦」は通常、年内に収穫し、「野囲い」と呼ばれる貯蔵方法で追熟した後、1 月下旬頃より順次出荷されます。近年、野囲い資材として使用される稲わらの確保が困難になっているため、これに代わる資材を検討しています。昨年度の調査から有望資材として選定したアルミプチ（アルミ蒸着気泡緩衝材）と PP ムシロ（ポリプロピレン製）を用い、野囲いによる品質変化等を調査しています。今後は、4 月まで継続して野囲い内部の温度の推移、果実品質および貯蔵障害を調査します。